

# 営農支援情報

～営農にお役に立つ情報をお届けします～

令和元年9月1日  
(第6号)

発行元:ホクレン北見支所 営農支援室  
(アドレス:[11einousien@hokuren.jp](mailto:11einousien@hokuren.jp))

## 今号のテーマ:『たまねぎについて』

### 令和元年産 玉ねぎの生産動向・販売方向性について

- 本年産は、定植などの作業自体は順調に推移してきたものの、「干ばつ」の影響から当初期待していた「大豊作」からは下方修正となり、「早生品種までは豊作/中晩生は平年並み」の見方が強まっています。空知・上川など他主産地について、同様の傾向となっております。
- 中晩生は平年並みの見方はしているものの、全道総体では「豊作基調」であることや、府県産の残量が多くある中で、系統対策(適正な需給調整・販売期間拡大・加工/輸出販売など)の実行がより一層肝要になる年産と考えられます。

#### 1、生産動向

7/10調査結果	全道 計	オホーツク	道央	空知	上川	十勝	その他
面積 (ha)	12,855.2	7,108.3	359.2	2,106.4	2,624.0	563.8	93.5
収量 (t/10a)	<b>5,660</b>	<b>5,880</b>	<b>5,060</b>	<b>5,150</b>	<b>5,720</b>	<b>5,060</b>	<b>4,480</b>
統計取扱量 (t)	571,681	370,132	7,421	56,473	112,041	23,098	2,516
(同 前年) (t)	508,395	356,946	5,470	41,377	83,033	19,499	2,070

◆オホーツク管内は8/10調査 平均反収5,830kg(前回▲約50kg、系統取扱▲500t)の見込み

#### 2、全道出荷フレーム

区分	合計	生食	計	加工				用途未決数量
				事前契約	一般契約	暫定契約	他	
一般指標	543,757	390,000	135,951	80,000	10,000	30,000	5,951	27,806
加工業務指標	27,924	0	27,924	21,752	0	0	6,172	0
合計	<b>571,681</b>	<b>390,000</b>	<b>163,875</b>	<b>101,752</b>	<b>10,000</b>	<b>40,000</b>	<b>12,123</b>	<b>17,806</b>
全道共計				151,752t				
同 H30				145,960	同 H29		176,470	

#### 3、全道 取り進め方向性

- (1) 生食向けは、近年の目標値である「40万t」を基本とするものの、加工向けへの販路や府県産在庫も踏まえて、「39万t」を構え、各種需給調整対策を駆使しながら有利販売に努めます。
- (2) 府県産在庫が多いことや一般野菜全般の低迷などから、例年になく厳しい販売環境での北海道産スタートとなりましたが、近年の会員皆様のご尽力による安定的な早期早出版売により、着実に売場拡大となっており、月末からは「北海道フェア」などによる需要が増加しております。
- (3) オホーツク222への切替時期、倉入完了の目途が見えてきた段階では、系統対策として、【輸出】【消費地保管】【適正な需給調整】など価格浮揚に向けた体制構築を進めてまいります。
- (4) また、北見地区では超遅出(5月以降生食出荷)を、令和2年産に向けて品種構成比率の変更を進めるとともに、さらに超遅出の安定・拡充に向かってまいります。

# 鉄道情勢について

## □青函トンネルにおける新幹線・貨物列車の共用走行問題

- ① 青函トンネルを含む一部区間は、現在新幹線と貨物列車が線路を共用して、運行している。
- ② 新幹線と貨物列車がすれ違った際、風圧で貨物列車の脱線や積み荷への影響が危惧されており、現在は、新幹線が速度を落として当該区間を走行している。
- ③ JR北海道は2030年の新幹線札幌延伸時には東京～札幌間を4時間30分で運行することを計画しているが、JR北海道は赤字経営に苦しんでおり、今後10年での自主自立に向けては新幹線の高速化が必要としている。
- ④ これを踏まえて国交省においても、青函トンネル内での新幹線高速化について、貨物列車との共存の在り方や打開策を協議・再検討しており、関係者へのヒアリングなどを行っている状況にある。

### <新幹線高速化に向けた貨物列車との共用走行についての国土交通省の方針>

- ① 現在の状況:2019年春に**新幹線の青函トンネル内時速160km走行**が実現
- ② 札幌延伸時:さらなる高速化に向け、貨物列車が代替輸送モードに切り替わる可能性が！  
⇒ 「**鉄道貨物駅**」から、**苫小牧**など「**港湾集荷**」に変更になれば・・・  
●**さらなるドライバー不足、コスト増加、リードタイムが伸びる懸念**

## □JR北海道における13線区廃線問題

- ① JR北海道が示した「単独では維持困難な13線区」には貨物列車の走行区間3線区（石北線・室蘭線・根室線）が含まれている。
- ② 国交省が平成30年7月27日付で公表した「JR北海道の経営改善について」の中で、貨物列車の運行に必要な設備投資及び修繕等への支援について、令和元年度からの2年間は、国から全額助成を実施するとしている。  
（令和3年度以降は、国の支援を継続するため所要な法律案を国会に提出することを別途検討）

### <万一、廃線となった際の影響>

- ① **輸送コストの増嵩、利便性の喪失（JRは5ト単位での輸送が可能）**
- ② **海上輸送への転換による、特に繁忙期における輸送力不足**

## □2つの問題に求められる対応

- ① 青函共用走行問題 > **新幹線・貨物列車の共用走行の維持！**
- ② 13線区廃線問題 > **貨物3線区を含む道外移出に必要な路線の維持！**

**道・国の支援・後押しが必要！！**

北海道中央会とも連携した中でJAグループ北海道として、昨年度に農林水産省や国土交通省に対する要請書を提出しており、また今年8月には道内選出国會議員に対して鉄道貨物輸送に関する課題・懸念事項について説明しております。

## 【北見施防協試験結果のコーナー】

～このコーナーでは過去に行った北見施防協試験※の結果(概要)を中心にご報告いたします～

※北見施防協試験とは？…管内農協・網走農業改良普及センター・ホクレン北見支所で、「北見施肥防除合理化推進連絡協議会(北見施防協)」を組織しており、肥料・農業に関する新資材や新技術に係る現地試験ほ場を設置し、その結果を取りまとめています。

平成30年度試験 たまねぎネギアザミウマに対する  
新規殺虫剤試験 **ファインセーフフロアブル**

H30 たまねぎアザミウマに対する  
効果確認 (JAえんゆう)

<登録内容>

作物名	適用害虫名	希釈 倍数 (倍)	使用薬量 (g/10a)	使用時期	使用方法	使用回数	
						本剤	70外特)
たまねぎ	アザミウマ類	1,000 ～ 2,000	100 ～ 300	収穫 3日前まで	散布	3回	3回

**本剤の特長** 新規作用機作であり、アザミウマ類に有効です！

試験ではアザミウマの発生が少ない条件でしたが、  
薬害などもなく、対照のトクチオン乳剤と比較して  
同等の効果(即効性、残効性)を示しました。

また、本剤2,000倍での試験も同様に行いましたが、  
対照と同等の効果を示しました。



## ●秋播小麦試験圃場で収量センサー付きコンバインを用いて収穫作業！ 《ホクレン訓子府実証農場 農産技術課》

ホクレン訓子府実証農場では7月31日に秋播小麦試験圃場(2.4ha)で、きた  
みらい麦作振興会、きたみらい農協と連携のうへ、収量センサー付きコンバイン  
を使い収穫作業を行いました。

収量センサーを利用すると、圃場内の地点別の収量を把握することができるよ  
うになります。

試験圃場の収量は粗原重量で約  
1t/10aでしたが、地点ごとの収量に  
わずかにバラツキが見られました。こ  
の圃場では可変施肥を行っており、  
今後、収量センサーで得られたデー  
タと可変施肥のデータなどの関連を  
解析し、講習会などでフィードバック  
していきたいと思ひます。



## ●JAおとふけ・JA木野で女性部限定のGPS自動操舵体験試乗会を開催 《ホクレン帯広支所 営農支援室》

帯広支所営農支援室は、JAおとふけ・JA木野と農業機械メーカーとともに、8月9日に「GPS自動操舵体験試乗会」を開催しました。

このイベントは女性部を対象としており、①自動操舵トラクターについて学び女性ができる作業の選択肢を増やすこと、②女性同士のネットワークを広げること、を目的としたものです。

当日はあいにくの天候でしたが、約40名の女性部員が参加。会場となったJA木野穀類乾燥調製貯蔵施設の駐車場で自動操舵トラクターの試乗を行いました。

試乗の順番を待つ間は、農機メーカーによる機器の説明や、アシストスーツの試着体験を実施しました。参加者からは「普段トラクターを運転しないが、これならできそうだった。また運転してみたい」「今回の試乗会はトラクターに親しむための最初のステップとして非常に良かった。次はもっと詳しい内容を知りたい」などの感想がありました。今回のイベントをきっかけに、トラクター操作ができる女性が増えることで、労働力不足解消の一助になることが期待されています。



雨天のため、圃場ではなく駐車場で試乗



農機メーカーによるガイダンスの説明



アシストスーツの試着ブースも好評



ランチ会で女性同士のつながりを深めた

★内容に関してのお問い合わせやご意見・ご感想につきましては、ホクレン北見支所 営農支援室（担当：林田）まで、メールにてお願いいたします。（アドレス：[11einousien@hokuren.jp](mailto:11einousien@hokuren.jp)）

### ～次号予告～

次号（令和元年度第7号）のテーマは『スマート農業(酪畜)』です。乞うご期待下さい！